

色麻町

第34回 さなぶりの芸能大会
第31回 婦人会福祉チャリティー



仙北麦搗き踊り

今から約80年前の昭和15年、町制前の色麻村においては年間640トンもの麦の生産量がありました。同じ年、米は5000トンだったので、村の穀物生産量の約10%が麦だったのです。農家では機械のない時代、作業は手作業でおこなっていました。その作業で歌われたもの（作業唄）に踊りが加わったものが「麦搗き踊り」だと言われています。

麦の収穫作業は、①鎌で刈り取った麦を広げ穂をとる「麦打ち」②穂を臼に入れて、杵（きね）で麦の殻（から）を取る「麦搗き」などがあり、②のときに歌われたものが「麦搗き唄」です。町では、昭和50年代、町おこしの一環として伝統芸能の掘り起こしに取り組み、多くの方々の協力のもと、麦搗き踊りが完成しました。

現在は、意思を受け継いだ色麻町下黒沢地区の「仙北麦つき踊り保存会」の方々が踊り継いでいます。

